【日本の大学】第 45 回――同志社大学：自由、良心、国際主義掲げる

同志社大学は、江戸時代末期から明治の初めにかけて日本を密出国し、約 10 年間米欧で学んだ教育者、新島襄が 1875 年、京都に設立した同志社英学校が前身である。留学中にキリスト教徒となった新島は、学問の探究とともにキリスト教主義に基づいて、「自由」と「良心」に立つ人間を養成する教育機関を日本でも開設したいとの夢を抱き、1874 年、31 歳の時に帰国。すぐに設立に着手し、国内外の多くの人々の協力を得て翌年 11 月 29 日、京都の地に英学校を立ち上げることができた。

校舎と紅葉の風景（今出川キャンパス）

新島の遺志を継ぐ

新島はその後、大学設立を目指したが、その途上の 1890 年に 46 歳の若さで永眠した。大学設立の遺志は、教え子などによって引き継がれ、没後 22 年の 1912 年に同志社大学は開校にこぎ着けた。

以下、同志社大学のホームページなどからその歴史や現状をみていこう。

新島は 21 歳の時、国禁を犯して函館から米国船で海外へ脱出、米国ボストンに着いた。ボストンでは上海で乗り換えた船の船主夫妻の援助を受けて教育を受けた。その後、アーモスト大学に進学し、卒業後は神学校に学び、その附属教会で洗礼を受けている。

29 歳の時、日本からの岩倉具視使節団と会って、欧米教育制度調査の委嘱を受けて欧米各国の教育制度の視察を行った。そうした中で、日本に帰国して若者教育に携わりたいとの気持ちを強めていった。

新島襄・八重夫妻

官許同志社英学校は、当初、教員は新島と J.D.デイヴィスの二人、生徒は 8 人だった。翌年の 1876 年には、女子塾を開設している。その後、84 年に新島は 2 度目の海外旅行に出て 1 年半ほどで帰国している。

同志社という校名は「志を同じくする者が集まって創る結社」という意味であり、「一つの志」あるいは「同じ志(同志)」という意味である。

新島は「同志社大学設立の旨意」の中で、「一国を維持するは、決して二、三、英雄の力にあらず。実に一国を組織する教育あり、智識あり、品行ある人民の力に拠らざるべからず。これらの人民は一国の良心とも謂うべき人々なり。而して吾人は即ち、この一国の良心とも謂うべき人々を養成せんと欲す」と記した。

大学設立の募金活動中に倒れた新島は、10 か条の遺言を残した。彼は、日本が自由で民主的な近代国家になるためには、一人ひとりの個性と人格が十分に尊重されることが大事だと考え、同志社においても生徒一人ひとりの人格を尊重した。遺言の中でも「学生を丁重に対応すること」を教職員に望んでおり、今もその遺志は大学教育の中に守られている。

同志社の完成には何年かかるのかと初対面の勝海舟に問われた新島は「二百年の後を期せざるを得ざるべし」と答えたとされている。

新島死去後、米国の実業家 J.N.ハリスからの寄付によってハリス理化学館(国の重要文化財)が竣工し、ハリス理化学校が開校(1890 年)した。さらに、政法学校が開校(1891 年)、クラーク神学館(現・クラーク記念館)の開館 (1894 年)、専門学校開校(1904 年)など発展の礎が築かれた。ハリス理化学校は、工学部(現在は理工学部)の淵源とされ、政法学校は法学部と経済学部の前身とされている。

ハリス理化学館

クラーク記念館

1912 年には、新島の遺志が叶い、専門学校令によって同志社大学と女学校専門学部が開校した。大学は、予科、神学部、政治経済部、英文科からなっていた。1920 年には大学令による同志社大学となった。この時は文学部（神学科、英文学科と 1927 年に哲学科を増設）、法学部（政治学科、経済学科と 1923 年に法律学科を増設）、大学院及び予科からなっていた。

第 2 次大戦後は新制大学の開設を急ぎ、1948 年に開校にこぎ着けた。この時は神学部、文学部、法学部、経済学部の 4 学部と、附属として同志社高等学校、女子高等学校、商業高等学校（定時制）があった。翌年の 49 年には、商学部と工学部を新設し 6 学部となり、女子大学が学芸学部 1 学部で開校している。

大学院は 1950 年に修士課程を設置、神学、文学、法学、経済学、商学の各研究科を開設した。この際、夜間 2 年制の短期大学部も併設されている。博士課程は 53 年に開設した。短期大学部は 54 年に 4 年制の 2 部となった。

その後は、アメリカ研究所（1958 年）、理工学研究所（59 年）など研究施設や大学会館、新図書館などの施設整備が続いた。1986 年に新たに広大な田辺校地（現・京田辺校地）を開校したことで、施設の充実拡大や学部の新増設が相次いだ。

ラーネッド記念図書館（第 2 代学長をつとめた D.W.ラーネッドから命名した京田辺校地の総合図書館である。玄関正面には、彼の愛誦句"Learn to Live and Live to Learn"（生きるために学び、 学ぶために生きよ）が刻まれている。）京田辺キャンパス

学部増設、14 学部に

現在、大学は 14 の学部があるが、発足当初と翌年に誕生した 6 学部のほかはこの 20 年ほどの間に新設された学部である。

2004 年に開設されたのが政策学部。国際機関や国、自治体、民間企業、NPO など大小さまざまな組織における問題発見から解決までのプロセス(政策)を研究対象にしている。実際の社会で起こるリアルな状況を想定しながら、理論的かつ体系的に「政策」を学ぶ。実社会の諸問題を題材に社会、政治、経済、法律などの具体的な知識・理論・技術を身につけていく。少人数クラスでコミュニケーション能力の実践的なトレーニングを行い、文化や宗教、民族、価値観など、世界に存在するさまざまな「違い」の中で、柔軟に対応できる多角的な視点を育てていく。

翌 2005 年には、文学部から分離して社会学部と文化情報学部を開設している。文学部は、英学校当初からある伝統の英文学科のほか、哲学科、美学芸術学科、文化史学科、国文学科で構成。社会学部は人と人、人と社会の関係を多様な視点で学ぶ。社会学部に属する 5 学科は既に文学部時代からの長い歴史があり、すべての学科が「ユニークな教育プログラム」を持っている。5 学科のうち社会福祉学科は 1931 年に設立され、社会学科、メディア学科、教育文化学科は 1948 年に設けられ、産業関係学科は 1966 年にできている。5 学科の一つを主専攻として選択したうえで、残り 4 学科にジェンダー、社会心理、国際社会を加えた 7 分野から副専攻が選べる。

夢告館（京田辺キャンパス）

2008年には生命医科学部･生命医科学研究科とスポーツ健康科学部を開設している。医療や福祉、健康など「生命」への関心の高まりや、健康寿命の延長、医療・介護の社会的な負担軽減といった課題の解決や要請に応えようと誕生したのが、生命医科学部である。現代の先進医療が、医学と工学の密接な連携によって支えられている点に着目、医療を支えるエンジニアや研究者の育成を目指して、「医工学科」「医情報学科」「医生命システム学科」からなる学部開設となった。学内外の最先端の研究・医療機関や、他学部との連携、サポートの下で教育研究を進めていく。1年次から医学の現状や課題を横断的に学べる「生命医科学概論」や「医工・医情報学概論」などの科目を設置しているほか、実践力を培うカリキュラムを構築している。

スポーツ健康科学部は、今後必要とされる生活の質向上を視野に入れたスポーツと健康のエキスパートの育成を目指す。「健康科学領域」「トレーニング科学領域」「スポーツ･マネジメント領域」という三つの学問領域から多角的な視点で専門のスキルを学ぶ。総合大学ならではの特色を生かして他学部との連携も積極的に進めている。

1890年開校したハリス理化学校が礎となった工学部は、1949年電気、機械、化学の3分野を柱とする科学技術教育をスタートさせた。その後、94年に今出川キャンパスから京田辺キャンパスへの統合移転に伴って、知識工学科(現在はインテリジェント情報

工学科)を設置、2004 年には情報システムデザイン学科、環境システム学科を加えて、9 学科編成となった。その後も再編を進めており、2008 年には、数理システム学科を加えたことで、情報、電気、機械、化学、環境、数理の 6 系 10 学科から成る理工学部に生まれ変わった。2012 年には大学院も工学研究科から理工学研究科となった。

2009 年に開設されたのが、心理学部と心理学研究科である。「科学的な心理学」を掲げており、心や振る舞いのメカニズムに関する基礎研究から、対人援助などの実践場面までの幅広い心理学を学ぶことができる。少人数教育を重視し、1 年次のセミナーから 4 年次の演習(ゼミ科目)まで、全学年で少人数科目を置き、きめ細かな指導を実施している。

彰栄館（重要文化財)、アメリカン・ボードの寄付により D.C.グリーンが設計した建物で、1884 年に竣工しました。今出川キャンパス

グローバル見据え、2 学部

13 番目の学部として 2011 年に誕生したのが、グローバル・コミュニケーション学部。同大が掲げてきた「国際主義」の理念を充実・発展させた現代のグローバル社会にふさわしい学びの場と位置づけ、英語、中国語、さらに留学生を対象にした日本語の 3 コースを備えている。

2013 年にはグローバル地域文化学部が開設された。グローバルな問題の多くは、地域の文化や経済環境、あるいは地域間の摩擦に起因する諸問題と連動している。グローバルな問題を理解し、課題解決の方途を思考することは、地域の文化や課題についての深い理解と不可分である。学部では、欧州、アジア・太平洋、米国の 3 コースのいずれかに属し、複数の言語の運用能力を基礎に、地域の文化・歴史・課題に関する学際的な知識を身につける。

キャンパスは歴史と伝統が刻まれた今出川校地と、1986 年に関西文化学術研究都市の一角に開校した京田辺校地がある。今出川校地は大学誕生の地であり、京都市の中心部、京都御所の北側に位置する同志社 145 年の歴史そのものと言える場所である。キャンパス内には、重要文化財が 5 棟あり、古都京都の芸術・文化の伝統が独自の存在感を与えている。

同志社礼拝堂（チャペル）D.C.グリーンによる設計で、1886 年 6 月に竣工したプロテスタントのレンガ造チャペルとしては日本に現存する最古の建物。今出川キャンパス

全学共通の教養教育科目として英語を提供するなど、世界の中の日本をよりよく理解することを目的に 2016 年にスタートしたのが、グローバル教育センターである。人文科学から社会科学、さらに自然・人間科学にまで及ぶ幅広い教養（リベラルアーツ）の科

目について、広義や討論、レポート・試験もすべて英語で行っている。

ここには、200 近い海外の協定大学から、日本の文化・社会・自然などを英語で学ぶ交換留学生を受け入れている。留学生と日本人学生が、少人数編成のクラスで、グループワークやディスカッションを中心の対話型授業で共に学ぶことにより、さまざまな価値観やものの見方を相互に学び合いながら、日本や世界が直面する課題を探究し、グローバルな視点から判断を下す力を培う。

在学するすべての外国人留学生へ日本語及び日本文化を教授するために日本語・日本文化教育センターも設置。日本語能力 9 段階別のきめ細かい「日本語科目」だけでなく、世界で活躍する各界の著名人を講師やゲストスピーカーとして迎え、「日本事情科目」や「国際事情科目」、「日本語・英語演習科目」などを提供している。

ISTC（国際科学技術コース）や京田辺キャンパスの魅力を発信すべく、本学への留学を検討中の外国人学生に向け、パノラマビューでバーチャルラボを体験できる PVP（パノラマ・ビュー・プロモーション）

留学生の支援制度としては、学内外の住居斡旋機関の紹介や借り上げ宿舎、大学寮の募集を行っている。就学や生活上の相談に応じたり、語学交換のパートナーとして異文化交流を深めたりする「留学生ピアサポート制度」などを設けている。

全学の学生数は、2021 年 5 月現在、学部学生数が 25974 名(うち女子 11048 名)、大学院修士 1428 名(女子 454 名)、後期課程 395 名(165 名)などとなっている。外国人留学生は 1152 名(うち女子 546 名)である。また、教員数は専任教員が 783 名(うち外国人教員 79 名)、嘱託講師が 1523 名である。

学長は植木朝子（うえき・ともこ）氏である。お茶の水女子大学文教育学部を 1990 年卒業、同大学院修士、博士課程を経て、98 年博士(人文科学)。同志社大学には、2005 年文学部国文学科助教授となり、教授、文学部長、副学長などを経て 2020 年 4 月から現職。研究分野は中世歌謡・芸能。

日文：滝川　進

写真：同志社大学 HP & FaceBook & Twitter